

パラリンピック冬季競技大会の歴史と概要

■冬季競技の歴史

身体障害者の冬季競技は、第2次世界大戦で負傷した傷痍軍人を中心に広まりました。

アルペンスキーは、片下肢切断者のために考案された「3トラック・スキー（1本のスキーと2本のアウトリガーで滑るスキー）」の存在が切断者のアルペンスキー人口を増加させ、1949年には第1回オーストリア3トラック・スキー選手権がドイツ・バドガスタイン（現バイエルン）で開催されるまでになりました。クロスカントリーは、ノルウェーの視覚障害者を中心に普及がはじまり、1970年にはクロスカントリースキー大会がノルウェーで開催されるようになりました。

パラリンピック冬季競技大会は、切断者と視覚障害者のスポーツの振興を中心的に進めてきた国際身体障害者スポーツ機構（ISOD）が1976年にスウェーデン・エンシェルトヴィークで開催した国際身体障害者スキー大会が、国際パラリンピック委員会（IPC）設立後に第1回大会として位置付けられました。なお、アイススレッジスピードレースは第2回ヤイロ大会から正式競技に（第7回長野大会まで実施）、バイアスロンは第4回インスブルック大会、アイススレッジホッケーは第6回リレハンメル大会、車いすカーリングは第9回トリノ大会から正式競技になりました。

■アルペンスキー

身体障害者のアルペンスキーは、国際スキー連盟（FIS）の規則に準じますが、障害特性を考慮し規則を一部変更しています。

- ①参加選手は、障害の種類や程度、運動機能等によって区分されています（クラス分類）。
- ②競技は、男女別にスタンディング（立位）、シットイング（座位）、ビジュアリーインペアード（視覚障害）の各カテゴリーに分かれて行われます。
- ③各カテゴリーの順位は、選手のクラス毎に設定された係数を実走タイムに掛けた計算タイムで決定されます。なお、ビジュアリーインペアードでメダルを獲得した選手のガイドスキーヤーには、選手同様メダルが授与されます。

【スタンディング・カテゴリーに属するクラス】

LW1：両下肢に重度の障害 例：両大腿切断で義足使用

（1本または2本スキー+2本アウトリガー{またはストック}）

LW2：片下肢に障害 例：片大腿切断等 （1本スキー+2本アウトリガー{またはストック}）

LW3：両下肢に障害 例：両下腿切断等 ※障害の程度により2クラスに分けられる

（2本スキー+2本アウトリガー{またはストック}）

LW4：片下腿に障害 例：片下腿切断で義足使用等 （2本スキー+2本ストック）

LW5/7：両上肢に障害 例：両上腕切断等 （2本スキー、ストックなし）

※障害の程度により3クラスに分けられる

LW6/8：片上肢に障害 例：片側上腕切断等 ※障害の程度により2クラスに分けられる

（2本スキー+1本ストック）

LW9：片上肢及び片下肢に障害 例：片上腕切断及び片下腿切断

※障害の程度により2クラスに分けられる

【シットイング・カテゴリーに属するクラス】

LW10 下肢及び上部腹筋に麻痺のある脊髄損傷または同等の障害（座位バランス不良）

※障害の程度により2クラスに分けられる

LW11 下肢に麻痺のある脊髄損傷または同等の障害（座位バランス中程度）

LW12 下肢に軽度の麻痺のある脊髄損傷または両大腿切断

※障害の程度により2クラスに分けられる

【ビジュアルリーインペアード・カテゴリーに属するクラス】

- B1 視力0から光覚までの者で、いかなる距離、方向からも手の形が見分けられない
- B2 手の形の認知可能から視力が2/60(0.03)までか、視野が5度まで、あるいはその両方
- B3 視力が6/60(0.1)までか、視野が20度まで、あるいはその両方

原則として、数字が大きくなるほど障害が軽くなります

- ④スタンディングの選手は、障害の種類等によって1本ストックや1本スキーを使用する場合があります。1本スキーで滑走する場合は、ストックの代わりにアウトリガー（ストックの先がスキーの先端のようになっていたもの）を使って滑ります。



- ⑤ビジュアルリーインペアードの選手は、ガイドスキーヤーによる声や音による先導に従って滑ります。



- ⑥シットिंगの選手は、チェアスキー（フレーム及び身体をホールドするバケット部分と衝撃吸収装置等から成る本体）に1本のスキー板を装着した専用チェアと短いアウトリガーを使用して滑ります。



- ⑦バンクーバーパラリンピックのコースに関する規則は、FISの女子規定が適用されます。

＜バンクーバー大会実施種目＞

- ①ダウンヒル（滑降）
- ②スーパーG（スーパー大回転）
- ③ジャイアントスラローム（大回転）
- ④スラローム（回転）
- ⑤スーパーコンバインド（スーパーコンビ）

※バンクーバー大会より正式種目として実施される種目で、スーパーGとスラローム1本のタイムの合算で勝敗を競います。

■クロスカントリースキー/バイアスロン

身体障害者のクロスカントリースキーとバイアスロンは、国際スキー連盟（FIS）の規則に準じますが、障害特性を考慮し規則を一部変更しています。

- ①参加選手は、障害の種類や程度、運動機能等によって区分されています（クラス分類）
- ②競技は、男女別にスタンディング（立位）、シットイング（座位）、ビジュアリーインペアード（視覚障害）の各カテゴリーに分かれて行われます。
- ③各カテゴリーの順位は、選手のクラス毎に設定された係数を実走タイムに掛けた計算タイムで決定されます。なお、ビジュアリーインペアードでメダルを獲得した選手のガイドスキーヤーには、選手同様メダルが授与されます。

【スタンディング】

- LW2：片下肢に障害 例：片大腿切断等（2本スキー+2本ストック）
LW3：両下肢に障害 例：両下腿切断等（2本スキー+2本ストック）
LW4：片下腿に障害 例：片下腿切断で義足使用等（2本スキー+2本ストック）
LW5/7：両上肢に障害 例：両上腕切断等（2本スキー、ストックなし）
LW6：片上肢に障害 例：片側上腕切断等（2本スキー+1本ストック）
LW8：片上肢に障害 例：片側前腕切断等（2本スキー+1本ストック）

【シットイング】

- LW10 下肢及び上部腹筋に麻痺のある脊髄損傷または同等の障害（座位バランス不良）
LW11 下肢に麻痺のある脊髄損傷または同等の障害（座位バランス中程度）
LW12 下肢に軽度の麻痺のある脊髄損傷や両大腿切断等

【ビジュアリーインペアード・カテゴリーに属するクラス】

- B1 視力0から光覚までの者で、いかなる距離、方向からも手の形が見分けられない
B2 手の形の認知可能から視力が2/60（0.03）までか、視野が5度まで、あるいはその両方
B3 視力が6/60（0.1）までか、視野が20度まで、あるいはその両方

原則として、数字が大きくなるほど障害が軽くなります

- ④ビジュアリーインペアードの選手はガイドスキーヤーによる声や音による先導に従って滑走します。



- ⑤シットイングの選手は、シットスキー（フレームとシートから成る本体）に2本のスキー板を装着した専用チェアと短いストックを使用して滑走します。



- ⑥各カテゴリーの順位は、選手のクラス毎に設定された係数を実走タイムに掛けた計算タイムで決定されます。ビジュアルリーインペアードでメダルを獲得した選手のガイドスキーヤーには、選手同様メダルが授与されます。
- ⑦バイアスロンにおけるビジュアルリーインペアード選手の射撃は、音響によって照準を定められるビームライフル（音：1400～1700Hz・ターゲット=直径3cm）を使用します。

<バンクーバー大会実施種目>

★クロスカントリースキー

- ・スタンディング男子、ビジュアルリーインペアード男子
10km 個人クラシカル、20km 個人フリー、1km スプリント
- ・スタンディング女子、ビジュアルリーインペアード女子
5km 個人クラシカル、15km 個人フリー、1km スプリント
- ・シッティング男子
10km 個人、15km 個人、1km スプリント
- ・シッティング女子
5km 個人、15km 個人、1km スプリント
- ・リレー男子
1人×4km+2人×5km
- ・リレー女子
3人×2.5km

1km スプリント バンクーバー大会より正式種目

- ①インターバル・スタートによる予選を行う
- ②予選上位8名による準決勝（4人1組×2組）を行う
- ③準決勝の結果により決勝（4人1組）を行う

★バイアスロン

- ・スタンディング男子、ビジュアルリーインペアード男子
12.5km 個人、3km パシュート
- ・スタンディング女子、ビジュアルリーインペアード女子
12.5km 個人、3km パシュート
- ・シッティング男子
12.5km 個人、2.4km パシュート
- ・シッティング女子
10km 個人、2.4km パシュート

パシュート（追い抜き） バンクーバー大会より正式種目

★予選

- ①インターバル・スタートによる予選を行う
- ②計算タイムと射撃の結果（ミス1発につき20秒加算）をもとに決勝進出者（原則上位8名。出場数により6名の場合もある）を決定

★決勝

- ①予選1位選手とのタイム差で1人ずつスタート
- ②先着順で順位が決定（射撃ミス1発につき80mループを周回）

■アイススレッジホッケー

下肢障害者によるアイススレッジホッケーは、国際アイスホッケー連盟（IIHF）の規則に準じますが、障害特性を考慮し規則を一部変更しています。

- ①IPC が認定した下肢障害選手が出場します。
- ②選手は、スレッジ（フレームとシートから成る本体に 2 本のスケート刃を装着したもの）に乗り、2 本の専用スティック（バック操作+推進に使用するため全長が短く、グリップエンドにスパイク刃が付いている）を使用します。



- ③1 試合は 15 分×3 ピリオド（インターバル 10 分）で行われます。
- ④2010 バンクーバーパラリンピックより、女性選手をプレーヤーに含めることが認められました。

■車いすカーリング

車いす使用者が行う車いすカーリングは、世界カーリング連盟（WCF）の規則に準じますが、障害特性を考慮し規則を一部変更しています。

- ①IPC が認定した下肢障害選手で、日常的に車いすを使用している選手が出場します。
- ②1 チーム 4 人で行います（男女混合）。
- ③1 試合 8 エンド、各チームのプレー時間は 68 分間。
- ④両チームの選手が交互にストーンを滑らせます（1 エンド＝4 人×2 ストーン）。
- ⑤助走することなく、静止してリリースします。
- ⑥リリース動作で車いすが動かないように、味方選手が後方から車いすを支えることが認められています。
- ⑦手またはスティック（棒状のスローイング補助具）を使ってリリースします。
- ⑧スウィーピング（ブラシでアイス面をこする動作）は行いません。

